

## ●令和2年度一般入試後期日程試験講評（小論文）

### 【後期学力試験の基本的な姿勢】

宮崎公立大学国際文化学科が行う総合学力試験として、以下の4点を念頭に置いて作題した。

1. 現代社会における主要な問題であり、かつ多様な解釈ができるテーマであること
2. 内容の正確な理解に加え、得られた情報を的確に活用する能力を問う課題であること
3. 偏見が散見されるセンシティブな課題であり、自身の考えを客観的に見つめる批判的思考が求められる課題であること
4. 根拠のない主義主張の羅列ではなく、課題文や自身が有する知見に基づいて、論理的に表現する技能と態度を問う課題であること

### 問1

下線部が指す内容について説明を求める問題。

下線部①には指示代名詞 **this** があるので、その直前に指し示す内容が述べられている。具体的には、直前の段落の **men who do take child care** から **as being family friendly** までである。日本語に訳すことで答えようとした答案がほとんどであったが、**briefly** を「(数が) わずかな」と訳した間違いが目立った。関連する英文の意味は、「育児休暇を取得する男性はほんのちょっと（の期間）しか取っていないし、会社の人事課に勤務している場合が多い。このことから、そういった男性は、家庭に優しい人という政府のお墨付きをもらおうとしてやっている（に過ぎない）、ということが窺われる」となる。

### 問2

#### (1)

下線部の英文を和訳する問題。

英文和訳の基本は、英文の構造を正確に理解して、それが伝わるように日本語訳に表現することである。これに、語句を適切に訳すことが続く。よって、英文構造の理解不足は必ず大きな減点対象となる。

さて、下線部②は、副詞 **so**（だから）に続いて、複文が続いている。複文の構造は、従属節が **even if**（たとえ～でも）から **child care leave**, で、主節が **there** から **high** までで

ある。さらに従属節と主節のそれぞれが、and で結ばれた重文から成り立っている。したがって、訳す順序は次の通りとなる。[1]so、[2] even if で始まる従属節の women's participation から increasing まで、[3]従属節の and more are から care leave まで。次に、[4]主節の there has been から management まで、[5] 主節の and the wage から high. まで。

語句の訳し間違いで目立ったものを挙げると、participation（参加）を「割合」、the labor force（労働力）を「強制労働」、child care leave（育児休暇）を「育児から離れる」があった。また、more を副詞と誤解して、「ますます」と訳した答案も多かった。more の直後に women が省略されているので、more (women)（より多くの女性たちが）は are availing に対する主語である。

## (2)

下線部の背景に該当する箇所を抜き出す問題。

問題文にある context は、『コアレックス英和辞典』に高校最重要語と記されている。ここでは「状況、環境」という意味であるが、問題文にある「背景」と理解することもできるだろう。これが形容詞 patriarchal に修飾され、また、その内容が関係詞節 that assumes から providers. で説明されている。正答率は比較的高かった。

## 問3

下線部の語（代名詞）が示すものを本文から英語で抜き出す問題。

原則として代名詞が指すものはその直前にあるため、該当箇所が分かれば容易に解答できる。ただし下線部代名詞の品詞に適合する形で抜き出さなくてはならない。2 か所の下線部は“them”と“they”で、前者は目的語として後者は主語として使われている。従ってどちらも「名詞」の形で抜き出す必要がある。これを動詞や節の形で抜き出している誤答が見られた。

## 問4

下線部が指す具体的な内容を英文で抜き出す問題。

“such”は既述内容を示す表現であり、段落冒頭で使われていることから、抜き出すべき英文は直前の段落にあると推測できる。“expectations”を手掛かりに前段落を探すと最後の一文に“managers expecting”という表現が見つかるので、その文章を抜き出すと正解となる。下線部と同じ段落から英文を抜き出した誤答がいくつか見られた。

## 問 5

政府や企業の意図に反して起こっている現象を「ねじ曲がった影響（矛盾）」として日本語で説明する問題。

読むべき段落が指定されているので、その部分を丁寧に読み、以下 4 点について因果関係を意識しながら論述する。①政府が行っていること（子育てをする夫婦をサポートできるよう育児休暇の仕組みを改善している）、②企業が実施していること（政府が示す育児休暇の方針に従っている）、③現状（育児休暇を取得するのは大半が女性である）、④矛盾（女性をサポートするための育児休暇が、実際は女性を社内で不利な立場に陥れるシステムとなっている）。これら 4 点の論理的な繋がりがうまく説明できていない場合や、先入観や憶測に基づきテキストとは異なった論旨になっている場合は減点対象となった。

## 問 6

本設問は、（1）女性の社会進出を阻む課題がどこにあるのかを明らかにすること、及び（2）その課題の解決が容易でないのはなぜか、という二つの問いに答えるものである。また、「問題文 1 及び問題文 2 を読んだうえで」という指示があることから、二つの問題文が解答のうえで重要な役割を果たしていることが読み取れるだろう。

つまり、本設問の解答において重要なことは、まず次の 2 点である。

- ・二つの問いに対する解答が明確に論述されていること
- ・それぞれの解答において、二つの問題文に書かれていることが利用されていること

まず、上記の 2 点を押さえて解答を組み立てているかが採点のポイントとなる。この 2 点が満たされていない解答が散見されたが、特に問われたことを論じずに、課題解決の提案をする解答も多くみられた。少なくとも一つめのポイントである「問われていることに答える」という点については徹底してもらいたい。また、二つめのポイントについては、問題文 1(和文)の内容を踏まえているものは多かった一方で、問題文 2(英文)の内容を踏まえているものは非常に少なかった。二つの問題文を手掛かりに論じることが求められており、また英語の問題は英文を理解する手助けとなるように設定されていることから、二つの問題文を十分に活用して欲しい。

次に、本設問では「課題がどこにあるか」と「課題の解決が難しい理由」を記述することが求められているため、次のことも記述において重要なポイントとなる。

- ・課題の正確な把握
- ・課題の解決が難しい理由を、課題と弁別しながら、明示すること

多くの解答で、課題として記述していることが、課題の解決を困難にしている理由としても記述されていた。例えば、「男性の育休が少ないことが女性の活躍推進を阻む課題である。その課題の解決が困難な理由は、男性が育休を取りづらいからである。」といった解答がそれに当たる。もちろん、「取りづらい理由」の詳細な説明、それが発生するメカニズムについて言及されていればよいが、上記の記述で終わっている場合も多く、これでは理由の記述としては不適である。また、取り上げた課題と課題の解決が困難な理由の繋がりが不明確な解答もあった。

最後に、今回取り上げたテーマは「ジェンダー」に関わる問題であり、偏見や差別に基づく意見も出てくる可能性のあるテーマである。解答のなかには、少数ではあるが、そうした偏った見方に基づいた意見も見られた。例えば「男女の身体的特徴の差異を根拠にした論の展開」や「母乳での育児を当然視する内容」「子どもを産むことを当然視する内容」などがそれに当たる。批判的思考を問う今回の試験基準からしても評価を低くせざるを得ないが、それだけではなく偏見に基づく論の展開を許容することはできない。十分に注意してもらいたい。

国際文化学科を志す受験生として、日頃から多様な情報、意見、考え方に触れ、自身の持つ価値観、意見を批判的に省みてもらいたい。